

Pray for Japan

パルシステム東京 東日本大震災復興支援活動報告書 2022

2022年度は次につながる大きな一歩として、3年ぶりに役職員を対象に「福島スタディツアー」を再開することができました。今回も組合員と現地に出向くことは叶いませんでしたが、福島の子の様子を特設サイト「3.11week」に動画公開し多くの組合員と共有することができました。東日本大震災から12年の月日が経過し、現地の状況も変化し始めています。引き続き「3.11を忘れない」を大切に、これからの復興支援について考えていきたいと思ひます。



生活協同組合パルシステム東京
専務理事 杉原 学

復興支援特設サイト

3.11 week

被災の記憶と今を知る



詳しくはこちら



毎年3月に開催している「3.11を忘れない」をテーマにした企画。2023年3月には、「3.11week」と題し、復興支援の特設webサイトを制作しました。サイト内では映画の配信、3月11日に合わせたキャンドルナイトなどの復興関連イベントの情報発信や、東京電力福島第一原発付近の大熊町への取材動画、復興関連の物品である布ぞうりの販売などを行いました。

3.11
week

映画「10年後のまなざし」の配信



監督4人によるトークライブの様子

4つの視点から震災をみたオムニバス映画「10年後のまなざし」。復興支援に尽力したボランティア、原発事故で自宅に立ち入ることができないまま亡くなった方の家族の葛藤などのドキュメンタリーです。監督4人のトークライブを開催し、映画と共に公開しました。

3.11
week

福島スタディツアー取材報告



大熊町 木村 紀夫さん



富岡町 秋元 菜々美さん

原発の近くにある二つの町を役職員10名で訪問しました。大熊町の木村紀夫さんは、津波で娘さんをなくしました。遺骨の一部が発見された場所から「もし原発事故での避難がなければ助けられたのでは」という思いが消えません。富岡町の秋元さんは原発事故による避難で人がいなくなり、その後の復興政策により、地域の歴史がきれいに消えてしまうことの違和感を話しました。

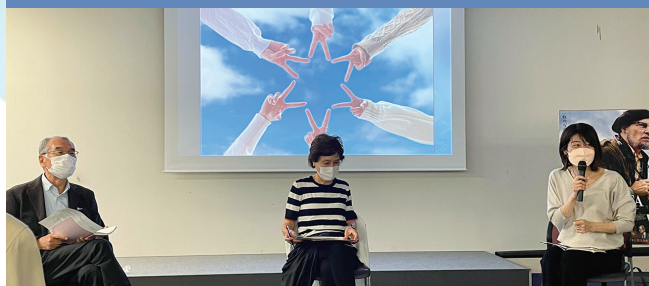
2022年度 主な復興支援活動

※【ハイブリッド】＝会場とオンライン両方で開催した企画

4月23日	【オンライン】チェルノブイリ子ども基金主催～福島・甲状腺がんを発症した若者たちの訴え～「3.11 子ども甲状腺がん裁判」弁護団長・弁護士井戸謙一氏講演会を、パルシステム東京が後援 →参加者：168名
7月11日	【ハイブリッド】認定NPO法人 Dialogue for People 主催「震災から11年、福島県双葉郡のいまを知る」福島取材報告会を、パルシステム東京が広報協力 →参加者：会場63名（オンライン約300名）
7月18日	【オンライン】「パル未来花基金」2021年度助成グループ活動成果報告会を開催 →参加者：19名
8月	「パルシステム東京 東日本大震災復興支援活動報告2021」をWEB発行、HPで公開
10月10日	【ハイブリッド】映画「MINAMATA」上映会&トークライブ ※子どもの甲状腺検診の事前学習 →参加者：会場21名、オンライン14名
11月3日 2023年 2月23日	「子どもの甲状腺検診」を11月に三鷹、翌年2月に新宿本部2会場で開催 →参加者：三鷹：40名、本部：21名
1月23日 ～24日	福島スタディツアー2022を開催、役職員で訪問 →参加者：10名
2月18日	【会場】「3.11WEEK」で上映されるオムニバス映画「10年後のまなざし」上映&監督トークの公開収録 →参加者：36名
3月3日～ 13日	【オンライン】「3.11WEEK～被災の記憶と今を知る～」ホームページで特設サイトを開設。3.11にかかわるオンライン映画上映、福島スタディツアー報告、パルシステム東京の復興支援の取り組みを掲載

・2023年1月19日に政府の原子力政策の大転換に反対するパブリックコメント4件を提出しました。

映画「MINAMATA」上映会&トークライブ



左から 伴 英幸氏、アイリーン・美緒子・スミス氏、白石 草氏

水俣病の裁判を映画化した「MINAMATA」を上映し、映画に描かれたアイリーン・美緒子・スミス氏らが登壇し、「水俣から福島を学ぶ」をテーマに、水俣病訴訟と3.11子ども甲状腺がん裁判の共通点「地域の分断」「風評被害」や「差別」などについて話しました。

パルシステム東京 子どもの甲状腺検診

「いわき放射能市民測定室たちね」と協力し、2015年から実施しています。2022年度は61名が受診。毎年新規の参加者も多く、例年と変わらず、組合員の関心の高さがうかがえます。



チェルノブイリ子ども基金主催企画 チェルノブイリ36年・福島11年 救援イベント 「福島・甲状腺がんを発症した若者たちの訴え」後援



2022年3月、原発事故により甲状腺がんを発症したとして、福島若者たちが東京電力と国に裁判を起こしました。裁判の経緯と焦点を弁護団の井戸弁護士が説明し、今後も続く裁判への支援を訴えました。

2022年度 助成、カンパ金報告	金額	団体名
パル未来花基金 4月 被災者支援をしているパルシステム東京の組合員を応援する基金です。	257万3,940円	アンサンブル・ふあさふあす／ソーマダーナ／東日本大震災「祈り」実行委員会／フォトボイス・プロジェクト／福島子ども保養プロジェクト@練馬記録グループ／福島子ども支援プロジェクト・西多摩／星空キッズツアー／星つむぎの村／まぐいタイムズ
東京電力福島第一原子力発電所事故被災者応援金 5月 原発事故の被災者を支援する募金活動。パルシステムグループ全体で取り組んでいます。	1,040万8,600円 パルシステム東京が推薦した団体へは360万円	いわき放射能市民測定室たちね／ハートフルハート未来を育む会／ふよう土2100／FoE Japan／沖縄・球美の里／新宿代々木市民測定所／Dialogue for People 他、パルシステムグループの会員生協からの推薦団体11団体
城南信用金庫 ボランティア預金 利息配分 11月 城南信用金庫に預けている「ボランティア預金」の利息分 200万円を寄付しています。	200万円	いわき放射能市民測定室たちね／Dialogue for People／3.11甲状腺がん子ども基金／あじさいの会／新宿代々木市民測定所

